

(別添3)

**【高知県】
校務DX計画**

G I G A第1期までの取り組み

●県内自治体との強力な連携

本県では、県内の全ての市町村（学校組合を含む）の教育委員会と強力に連携を進めている。全国に先駆けて、県内の全教育委員会が連携した校務支援システムの導入や、児童生徒の学びをサポートするツールの全県導入を進め、教員が児童生徒に向き合う時間を増やすことで、個別最適な学びの実現等に取り組んでいる。

●校務支援システムの運用

県内の全教育委員会が連携し、小中高特全ての校種で同一メーカーの校務支援システムを導入している。県域で環境や運用ルールが統一されることで、学校や教育委員会の格差が無くなり、県全体で校務の効率化が進んでいる。

●県域G o o g l eアカウントの運用

1人1台端末の整備に併せて、県内の全教育委員会が連携し、全児童生徒及び全教職員にG o o g l eアカウントを発行した。これにより、下記のように校務の効率化に寄与している。

- ・児童生徒は小学校入学から高校卒業まで、最大12年間同一のアカウントを利用して自身の学習の記録を残せる。また、全員が利用できる学習支援プラットフォーム「高知家まなびばこ」を開発し、デジタル教材やツールの提供を実施している。
- ・県内統一のヘルプデスクを開設し、アカウントの発行・停止等の管理やツール許可設定、またG o o g l eのセキュリティアップデート適用の対応など、効率的に実施している
- ・校務支援システムから出力した情報を用いてアカウントの発行・情報更新・停止が可能となる仕組みを開発し、これらの処理が手入力無く短時間で実施可能となった
- ・全員がG o o g l eアカウントを保有している環境を活かし、県全域で利用可能なアンケートシステム「高知家しらべばこ」を開発し、調査の展開や結果の集計を効率化した。これにより、例えばシステムから発出したアンケートは締切を待たずに学校で結果が閲覧できるようになり、学校の現状把握が早くなった結果、タイムリーに校内研修を実施できるなど、アンケート実施の意義も高まった。

今後の計画

このように本県では、校務支援システムやG o o g l eアカウントなど、業務のインフラとなるシステムの県域運用により、全国に先駆けて県域での全体最適な業務効率化を進めている。現在、こうした都道府県域でのシステム統一に取り組む自治体が増えてきており、国の有識者会議においてもシステム同士の情報連携の仕組みについて議論さ

れていることから、今後、全国規模で全体最適の取り組みが進む可能性がある。こうした動きを注視しつつ、以下のとおり校務D Xに取り組む。

●次世代の校務支援システムの導入に向けた検討

校務支援システムについては、上述のとおり、全国規模での全体最適が進む可能性があり、その際には異なるメーカーの校務支援システムやデジタル教科書等の他のサービスとのデータ連携が必要になることが見込まれる。こうした大規模な連携が進む際には、校務支援システムの相互互換性を定義しているA P P L I C（一般財団法人全国地域情報化推進協会）において検討がなされることから、A P P L I C会員の校務支援システムメーカーと密に情報交換をしながら、必要な環境整備を進める。

●クラウド環境の積極的な活用

本県においては、これまでも県域で導入したG o o g l eアカウントを活かし、クラウド環境の積極的な活用を進めてきた。今後も学校のニーズを調査しながら、デジタル教材の導入や学校と保護者のデータ共有のツール導入などを進め、業務効率化を促進する。

●「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」への対応

「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」で挙げられている教育版セキュリティポリシーの整備や各システムへの手入力作業の削減、学校と保護者のデータ共有、F A X・押印の見直しなどについて、学校現場の状況を確認しながら、高知県における校務D X化に必要なルール整備や周知等を進める。